15　ベルサリエーレの歩哨　松岡寿

明治二十年（一八八七）　油彩・カンヴァス
一〇二・五×六二・五

本図は、工部美術学校でアントニオ・フォンタネージの教えを忠実に受け継いだ松岡寿が、その後のイタリア留学における成果を存分に生かして描いた代表作の一つである。ベルサリエーレとは、イタリア王国草創期にフランス軍によって占拠されていたローマに最初に入城した歩兵部隊のことであり、現在までつづく黒い羽がついた軍帽がトレードマークであった。松岡がイタリアで師事したチェーザレ・マッカーリは歴史画の大家で、近代都市国家へと新しく生まれ変わろうとしていたローマを舞台に、正統な官学派の画家として公共建築の装飾画も描いていた。本図はそのマッカーリの指導を受けて、歴史画制作の基礎課程である人物画を習練した松岡が、同時代の肖像としてイタリア愛国精神の象徴ともいうべきベルサリエーレの兵士を描いたものである。画面左下に「Hissashi」のサインがある。また、制作当初のものとみられるカンヴァスの木枠には、「筆者／在伊太利畫學生岡山縣士族松岡壽／油畫額　壹面」と墨書された紙片が貼付される。

本図は、明治二十年（一八八七）四月に宮中顧問官花房義質を通じて明治天皇の御下命を受けて制作されたもので、翌年十月六日に松岡がヨーロッパから帰国した直後の、翌十一月七日に献上された。これまで本図の制作年は、松岡が七十九歳のときに刊行された、『松岡壽先生』（安田禄造編、松岡壽先生伝記編纂会、昭和十六年）の掲載図版にふされた題名「伊太利ベルサリエーレ（輕歩兵）の歩哨　千八百八十六年作」をおそらく典拠として、明治十九年と紹介されてきた。しかし、これは晩年の松岡の記憶違いである可能性が高く、『明治天皇紀』（明治二十二年一月二十八日の条）および当庁書陵部に保管される公文書『恩賜録（明治二十二年）』（宮内省内事課〈総務課〉作成）より、御下命を受けた同二十年の制作とする方が妥当であることが明らかになった。また、このときに制作されたのは油画額二面で、もう一点はヴェルサイユ宮殿美術館にあったフランスの画家オラース・ヴェルネの大作「イスリーの戦い、一八四四年八月十四日」（一八四六）の一部、フランス軍ロゼット中尉が負傷している部分を模写したもので、翌二十二年一月二十八日に花房を通じて献上された（参考図版）。ちなみに、『松岡壽先生』刊行年と同じく昭和十六年頃の記入と推定される「揮毫控」には、「帝室御用」として「伊太利ベルサリエーレ（軽歩兵）歩哨の図ローマ在学中の作」「ベルサイユ画堂戦争画摸写仏国在学中の作」と記されている（青木茂・歌田眞介編『松岡壽研究』、中央公論美術出版、平成十四年）。

松岡寿（一八六二～一九四四）は岡山に生まれ、上京後、川上冬崖の聴香読画館に入門し洋画を学んだ。明治九年に工部美術学校に入学し、イタリア人画家フォンタネージの指導を受けた。同十三年、鍋島直大特命全権公使の従者としてイタリアへ渡り、同行した百武兼行とともにチェーザレ・マッカーリに師事した。その後、王立ローマ美術学校に入学し、同校を優秀な成績で修了して帰国、明治美術会の結成に参加した。明治後半以降はおもに美術教育の分野で活動し、東京高等工芸学校の設立にも関わり、デザイン教育の分野でも大きな業績を残した。

〈参考図版〉

「佛将ロゼト中尉負傷之図（模写）」　松岡寿　明治二十二年（一八八九）
当館蔵

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し
三の丸尚蔵館展覧会図録No.52

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年十月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections